

企業版ふるさと納税って？

1. 制度の概要

企業版ふるさと納税(地方創生応援税制)は、国が認定した地方公共団体の地方創生プロジェクトに対し企業が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組みです。これにより、通常の損金算入による軽減効果(寄附額の約3割)と合わせて、最大で寄附額の約9割が軽減され、実質的な企業の負担は約1割まで圧縮されます。

軽減効果が最大 **約9割** に



税目ごとの特例措置の内容		
①法人住民税	②法人税	③法人事業税
寄附額の4割を税額控除 (法人住民税法人税割額の20%が上限)	法人住民税の控除額が寄附額の4割に達しない場合、寄附額の4割に相当する額から法人住民税の控除額を差し引いた額を控除 (寄附額の1割、法人税額の5%が上限)	寄附額の2割を税額控除 (法人事業税額の20%が上限)

神山町概要説明



徳島県神山町(かみやまちょう)は、県都徳島市の南西部に位置し、面積173km2のうち86%を森林が占めている。特産のスタヂは生産量日本一を誇り、清々しい優雅な香りが料理の名脇役として味を引き立てる。

2004年町全域に高速インターネット網が敷設され、新しい働き方を模索する企業や個人がサテライトオフィスを開設。ワーク、アーティスト、シェフなどレジデンス事業によって新しい人材と地元住民らが化学反応を起こし、まちにさまざまな活動や仕事が生み出されている。人が人を呼び、想像を超える創造が生まれ、未来を変えるワクワク感がまちに溢れている。



面積 **173** km²

森林率 **86** %

社会動態 人が集まるまち
(令和5年度) **+53** 人増

人口 (令和6年7月1日現在)

4,718人

世帯数: 2429 世帯

サテライトオフィス

消滅可能性都市から
地方創生の聖地へ **16** 社

アクセス

徳島駅から車で **約40** 分

高齢化率 **50%** 超

お問い合わせ先
神山町役場 総務課 企画調整係

〒771-3395 徳島県名西郡神山町神領字本野間 100 番地
TEL: 088-676-1111 FAX: 088-676-1100
soumu@kamiyama.i-tokushima.jp



「人が人を呼ぶ」まち、
徳島県神山町。

地域交通アプリ
「まちのクルマ」
内閣総理大臣賞
「Digi田甲子園2023」

大団地の集合住宅
第24回
JIA環境建築賞
JIA環境大賞

フードハブ・プロジェクト
グッドデザイン金賞
(経済産業大臣賞)

人が集まるまち 神山町



大埜地の集合住宅は、分棟型の木造建築として設計し、かつ開発を4年間にわたらせることで、町内の大工さん等が腕を振るいながら少しずつ完成させました。これは人材育成の機会でもあり、お金や資源の地域内循環を高めることにもつながります。植栽は、町の高校の生徒さんたちと山で集めた種や枝から育てた苗木を中心に、地域の植物で構成。まちの風景に馴染む敷地と建物の開発を試みました。



敷地は、歩車分離の設計として、庭先で子どもたちが安全に過ごすことができます。玄関や庭先が隣接する長屋形式の建物は、住む人同士の日常の接点が生まれやすくなることを後押しします。集まって暮らすことで、子どもの生育環境がよくなり、多様な人のよい関係が生まれる住まいを目指しています。

人口5000人に満たない、山あいの小さな町。
この町に、日本中から人々が視察に訪れています。
人が集まり、帰ってきたくなる町、神山町。

住まい

ともに暮らし、育ち合う

子育て 移住・定住 関係が育つ空間 地域資源



一般社団法人 神山つなぐ公社
代表理事 馬場 達郎

まちに人がいることを支える「いい住居がある」状況づくりに取り組んでいます。それぞれの建設工事では、ただ家が増えるだけではなく、その過程が、関わる人が育つ機会となり、森林資源を使うことで山や川の環境がよくなるよう、建設プロセスを大切に取り組んできました。

すみはじめ住宅



「すみはじめ住宅」は、まちに住み始めながら、暮らしを考え、仕事を試み、人々との関係を育ててゆくための生活拠点。借りられる家を見つけ、改修までの間を過ごす居場所として機能します。「すみはじめ住宅」を通じた出会いや交流は、地域やまちの人と互いに相性を確かめあう機会にも。

安心な暮らし

出かける機会・明日への希望

交通 暮らし 安心 つながり

高齢者には「安心」だけでなく「希望」を持って暮らしてほしい。そんな願いからデジタル機器の日常使いを徹底的にサポート。デジタルに関する困りごとや悩みごとを相談できる窓口を開設。加えて毎週講習会も開催。Youtubeで自分の興味関心ごとを深めたり、広げたり、人生を楽しむ「じいちゃん」「ばあちゃん」が増殖中！



神山町役場 総務課 榎谷 学

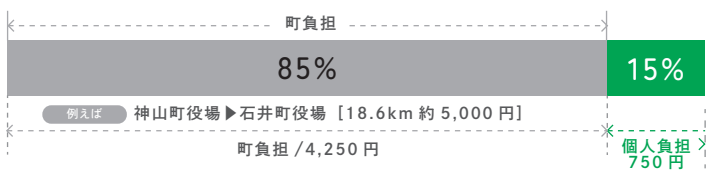
職員でありながら自分も一住民なので、町の課題を自分事に捉え、より暮らしを豊かにしていくことを自然と意識しています。まちづくりは、一足飛びに成功することではなく、地道で継続的な積み重ねが成功へのプロセスです。町の方からいただく声や気持ちの変化をエネルギーにして仕事に向かっています。

まちのクルマ Let's 全国展開中



免許がなくても
安心して暮らし続けられる
「まちのクルマ」プロジェクト

「バス停まで遠くて使えない」「免許返納したら病院や買い物に行くのが困る」といった住民の切なる声に寄り添い、家の軒先から目的地まで安価に気兼ねなく移動できる公共交通サービスを実現。地方の公共交通は利用者の減少と赤字運営で頭を悩ます自治体は多い。神山町では利用が困難だったバスを廃止し、タクシーによる個別輸送に補助を適用する「まちのクルマ Let's」をスタートさせた。いつ、誰が、どこから、どこまで利用したのかをスマホ一つでクラウド保存。利用者の認証はマイナンバーカードを活用。地域で暮らす高齢者に安心と豊かな暮らしを提供している。同じ悩みを抱える自治体のロールモデルとして展開を図っている。



循環

小さいものと小さいものをつなぐ

農業者育成 地産地食 食文化の継承



株式会社フードハブ・プロジェクト
共同代表取締役 白桃 薫

2018年より新規就農希望者の町内外から募り、次の世代の地域の農家を育てるため、農業研修を実施してきました。研修で学んだ農家が、地域の一員として農業を営んで行けるように、地域コーディネーター兼農業指導者としての役割をになっています。



日本の中山間地域では、農業者の高齢化、後継者不足による耕作放棄地の増加、それにともなう鳥獣害の被害などが大きな社会問題になっています。神山の農業従事者の平均年齢は71歳です。そんな日本のどこの田舎にもある課題を、地域で育て、地域のみんで食べて支えていく活動がフードハブ・プロジェクトです。



関係

出会う機会・場所づくり

子育て 多世代 出会い 居場所づくり



つなプロ報告会

年に2回まちの取り組みの進捗を共有する報告会。担当者だけでなく、プロジェクトに関わった先生や大工さんなどまちの人たちと一緒にマイクを握り状況を伝えています。会場には、子どもから大人まで町内外の様々な関心者が集まり、普段会わない人たちが偶然出会う機会にも。過去には東京・大阪の出身者や関係者向けの番外編も実施しました。



バスツアー

行ってみたくて行ったことがない、行く機会がない」という町内および出身者を対象に、実際にマイクロバスで現地を訪れる『町民・町内バスツアー』を開催しています。



鮎喰川コモン

鮎喰川コモンは、「まちのリビング」のように誰もが気軽に立ち寄れる場所になりたいと思っています。子育て支援、放課後・休日の居場所づくり、読書環境づくりを軸に、まちの人々の活動を支え、伴走していく場所です。神山町で暮らしている人々、帰ってきた人々、移り住んできた人々が互いの価値観や経験を分かち合い、育ち合いながら暮らしていける地域社会を目指しています。



一般社団法人 神山つなぐ公社
鮎喰川コモンスターフ 岩丸 智子 三好 純野



神山にいる大人も子どもも、出身の異なる人も、訪れた人も。どの人にとっても、自分らしく過ごせたり、お互い知り合えたり、まちの様子がより感じられたり。そんなことが起こりやすくなるよう鮎喰川コモンを運営しています。施設に立ち寄ってくれた人たちが少しでも双方向の関わりができるよう心がけています。

ひと

地域で学び、地域と育つ

脱炭素 景観保全 暮らし 地産地食



一般社団法人 神山つなぐ公社
理事・ひとづくり担当 梅田 學

学校そして放課後や休日のありようが「ここで子どもを育てていける、育てたい」と感じられるか否かにつながるのであり、そのような状況の実現には学校と地域の協働が欠かせないと考えています。そのために高校を軸に、まちの保育所、小学校、中学校と地域をつなぐコーディネートに取り組んできました。



まちの風景をつくる学校

神山町唯一の県立の農業高校。地域全てを学びのフィールドにした独自の授業を展開。加えて、専門とする農林業と食品加工の技術で、耕作放棄地の再生を行い、そこで70年以上継がれている伝統の神山小麦の栽培や、それを使っての商品開発をしている。結果、地域の文化をつなぐこと、まちの景観づくりの一助になっている。



まめのくぼプロジェクト

長らく管理が行き届かず草木が生い茂っていた場所を、神山校生たちが畑として再生。在来小麦の栽培から加工や販売、石積みの実習などを行う。



孫の手プロジェクト

家の周りの手入れが難しくなった高齢者のもとへ高校生が訪れ、学校で教わった造園技術を活かし「地域の困りごと」を有償で解消する地域の方との交流プロジェクトです。



自分たちで暮らしをつくる「あゆハウス」

城西高校神山校の寮「あゆハウス」では、畑で野菜を育て、毎日の食事を自分たちで作り、暮らしのルールも自分たちで話し合って決めています。また、まちの多様な人・自然との触れ合いを通じて、自身の可能性を広げていくことができます。